

木製の新規開拓へ  
五輪に向け温かみのある  
木造建築が見直されるな  
か、量産やコスト削減の  
技術開発が進む。建設の  
基準が整備されていなか  
ったため大手は本格的な  
参入に慎重だった。中小  
各社は「普及元年」をに  
らみ広がる商機をつかも  
うとしている。

ハウステンボス(長崎  
県佐世保市)が7月に開  
いた「変なホテル」。女  
性型ロボットが出迎える  
など個性的なサービスの  
宿泊施設で9月30日、第  
2期棟の工事が始まっ  
た。隣接する空き地には  
木製の新規開拓へ

れでいる。納入したのは  
木材メーカーの銘建工業  
(岡山県真庭市)。中島

一がビル建築の新市場に  
挑んでいる。これまで建  
設するのが難しかった木  
造ビルを可能にする木製  
の新規開拓へ

五輪に向け温かみのある  
木造建築が見直されるな  
か、量産やコスト削減の  
技術開発が進む。建設の  
基準が整備されていなか  
ったため大手は本格的な  
参入に慎重だった。中小  
各社は「普及元年」をに  
らみ広がる商機をつかも  
うとしている。

銘建工業

山本ビニター

# 生産能力10倍 専用プレス機

# 木造ビル用新建材に商機

浩一郎社長は「新工場を投じ、本社の隣接地に専  
建設して生産能力を10倍  
に増やす」と意気込む。

木製の新規開拓へ

3月の稼働をめざす。生  
産能力は年間で5万立方  
メートルと国内最大の規模にな  
る。集成材事業の売上高  
を数年で2倍の50億円に  
引きあげる計画だ。

CLTは木材を張り合  
わせて作る集成材メーカー  
にとって既存の製造技  
術を応用しやすい。山佐

日本では林野庁を中心  
に普及を推進している。  
国産のスキ材などを有効  
利用できるためだ。国は  
2024年に国内の35  
4階建ての建築物の6%  
にあたる年50万立方メートル  
を目標とする。

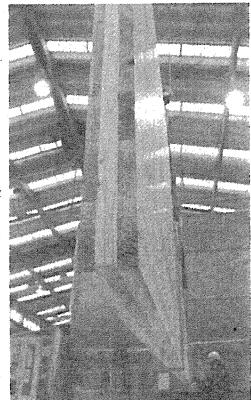
CLTはクロス・ラ  
ミネイティッド・ティンバ  
ーの略。木目が直交する  
ように互い違いに何層も  
重ねることで強度を高め  
た。引張り強度はコン  
クリートの4倍あるが、  
軽量で輸送や施工がしや  
すい。普及による国産材  
の利用拡大も期待されて  
いる。1990年代に欧  
州で利用が始まり、英國  
やイタリアでは10階前後  
の木造ビルがあり、ウイ  
ーンでは24階建て高層ビ  
ルが計画されている。

鉄筋コンクリートな  
どに比べ工期が短縮でき  
る。建設現場の人手不足  
を和らげる期待もある。  
これまでには柱や壁とい  
う構造材に使うには、  
個別の案件ごとに国土交  
通省の認定が必要だっ  
た。手続きに手間と時間が  
かかるため、統一した  
規格の部材を大量に扱う  
大手メーカーでは本格的  
な利用が難しかった。

国が普及を後押しする  
のは材料に国産のスキ材  
などが使えるためだ。東  
京五輪では選手村や競技  
場でも利用が検討されて  
いる。2016年度には

建築基準を定め、通常の  
建材と同じように使える  
ようになる予定だ。

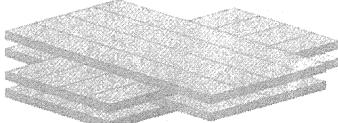
このため来年が「普及  
元年」になると期待され  
ている。日本CLT協会  
(東京・中央)は設立か  
ら間もなく4年で会員は  
240社を超えた。



銘建工業で製造さ  
れるCLTパネル  
(岡山県真庭市)

## 新建材(直交集成板)の特徴

### ①強度がコンクリの4倍

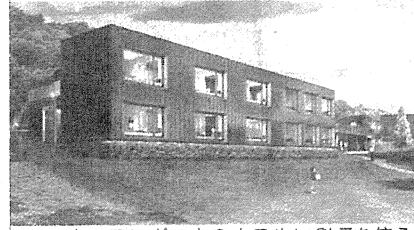


### ②木造で高い建物ができる



ミラノに建つCLTを使った公営住宅

### ③パネル式で工期を短縮



ハウステンボス内のホテルにCLTを使う

### ④国産材の有効利用を促進

### ⑤まだ価格が高い

## 工期短く、人手不足の現場向き

銘建工業は約40億円を  
中高層の木造ビルも建設  
できる。CLTは木材を張り合  
てできる。壁や床に使え、  
中高層の木造ビルも建設  
できる。

CLTは木材を張り合  
てできる。壁や床に使え、  
中高層の木造ビルも建設  
できる。

木質パネルのCLTは  
中高層の木造ビル建設に  
道を開く期待の新建材  
だ。重さは同じ体積のコ  
ンクリートの約5分の1  
である。建設現場の人手不足  
を和らげる期待もある。

これまでには柱や壁とい  
う構造材に使うには、  
個別の案件ごとに国土交  
通省の認定が必要だっ  
た。手続きに手間と時間が  
かかるため、統一した  
規格の部材を大量に扱う  
大手メーカーでは本格的  
な利用が難しかった。

国が普及を後押しする  
のは材料に国産のスキ材  
などが使えるためだ。東  
京五輪では選手村や競技  
場でも利用が検討されて  
いる。2016年度には

建築基準を定め、通常の  
建材と同じように使える  
ようになる予定だ。

このため来年が「普及  
元年」になると期待され  
ている。日本CLT協会  
(東京・中央)は設立か  
ら間もなく4年で会員は  
240社を超えた。

械を輸入して日本仕様に  
組み替えていたが、国産  
も登場はじめた。高周波ア  
レス機械の山本泰司社長は国  
産初となる専用のアレス機を開  
発した。11月にも北陸の  
本泰司社長は国産初と  
いふに生産量を引きあげ価  
格を下げる計画だ。銘建

博信社長はCLT向け  
の接着剤を開発した。  
普及に向けた課題はコ  
ストだ。現在は生産量が  
少ないため1立方メートル  
あたり15万円ほどと、普及が  
進む欧州の2倍。このた  
め国は10年ほどで欧州並  
みに生産量を引きあげ価  
格を下げる計画だ。銘建

力(東京都板橋区、宮本